

# アジアこども会議

コンクール授賞式が終了した後、入賞者全員参加による第8回アジアこども会議が開催されました。司会の崎田裕子氏から、ごみの量の多さ、分別の仕方などの実演プレゼンテーションの後、各国の子供達は自分の作品で一番伝えたかったことや、今年のテーマ『ごみ問題と、今私たちにできること』に基づいて思い思いに意見を述べました。

全ての意見をまとめ、今年のこどもアジェンダ21宣言書は「すべての命が環わになってくらせる地球をつくろう。みんなでクリーンシャトルをつくってゴミを減らそう。」と決意し、代表の子供達から環境大臣代理・環境省総合環境政策局長中川様に手渡されました。中川局長よりは「明朝、ボンからお帰りになる川口環境大臣に早速お渡しします。」とのご挨拶をいただきました。

- 日時 2001年7月24日(火) 14:40~16:40
- 会場 如水会館3F 富士の間
- 会議参加者 コンクール受賞者
- イベントの内容  
受賞者による環境問題を考える子供による会議を開催し、その成果を「こどもアジェンダ21宣言」としてまとめ、環境省総合環境政策局長(環境大臣代理)に提出する。
- 会議テーマ 『ごみ問題と、今私たちにできること』
- 司会進行 崎田裕子氏

## 崎田 裕子(さきた ゆうこ)氏 プロフィール

ジャーナリスト・環境カウンセラー。  
生活者の視点で社会を見つめ、近年は環境問題、特に「循環型社会づくり」を中心テーマに、講演・執筆活動に取り組んでいる。  
また、環境庁登録の環境カウンセラーとして、環境学習の推進に広く関わっている。  
「元気なごみ仲間の会」事務局長、「こどもエコクラブ」推進委員も務める。

- ◆委員(平成13年5月現在)  
首相の私的懇談会「21世紀『環の国』づくり会議」メンバー、東京都「廃棄物審議会」委員、環境省「中央環境審議会・循環型社会計画部会」臨時委員、環境省「政策評価委員会」委員

- ◆著書  
『だれでもできる ごみダイエット』(合同出版)  
『ごみゼロ東京が見えた日』(日報)、他  
編集責任:『ごみから未来を学びたい2~循環社会は企業と市民が創り出す』(日報)他

## \*プログラム\*

高円宮殿下・妃殿下ご入場  
主催者代表挨拶<地球こどもクラブ理事 田中豊蔵>  
第8回アジアこども会議  
こどもアジェンダ21宣言書とりまとめ・  
環境省総合環境政策局長へ提出  
高円宮両殿下ご退席



田中豊蔵理事の挨拶

# アジアこども会議内容

## 1) プレゼンテーション「私たちの出しているごみを知ろう！」



司会の崎田さんよりまず日本のごみ問題についての説明がありました。「日本人の大人に対して行ったアンケートで『環境問題に関心ありますか』という間に9割が「もちろん」と答えたのに対し、その中で『では実際買い物をするときにごみを減らすことをきちんと考えて買っていますか』の間にはたった1割。まだまだ関心があっても、実行できている人は少ないのが現状です。」という説明の後、日本人が一人で1日に出すごみ量とされている 1kg という重さについて、具体的にどれくらいのごみが 1kg にあたるのか、各テーブルごとに協力して実際のごみを袋に詰めてみました。

私たちが身の周りで使っているのは、紙やプラスチックなど大変軽い素材が多いので、実は『1kgのごみ』は思っていたより量が多いことがわかりました。

新村「一人がこの量を出してるなんて、びっくりしました」



また、資源になるものとそうでないごみとの分別にもチャレンジしました。受賞者の皆さんは、全国各地からの参加なので、県や地域によって違いがあらわることがわかりました。

ごみの種類では、全体の 1/2 の量が生ごみ、1/4 が紙ごみ、1/8 がビン&缶、残りの 1/8 がプラスチックです。



このようにたくさん出るごみを、日本ではできるだけごみとして捨てずにきちんと資源にしましょうという取組みを進めています。そこで、昨日の環境視察で見学した紙リサイクルについて尋ねました。

村瀬「私は昨日紙のリサイクル工場に行って（環境視察）、手作りで紙を作ったりし、今まで自分たちが使っている紙と違って、手触りも作り方も違うし、なんといっても環境にも良い感じがします。だから、このような紙が私たちの毎日の生活でも使うようになってほしいと思います」

キンバリー・リム（マレーシア）「日本でこのようにリサイクルで新しいトイレペーパーが生まれ出されていることに感銘しました。が同時に、それでもリサイクルできないもの（＝処理できないプラスチック製ごみ）ができると思っていたものの中から生まれ、最終的に使えないものが残るのは大きな問題だと思いました」

李（中国）「日本では、通常ごみになるはずの紙や牛乳パックや新聞紙を再利用するという考え方、そしてその仕組みを実際作り、きちんとした工場で製品まで作っているのが非常に素晴らしいと思います。また、私が工場の方に『このような工場は日本にどのくらいあるか』質問したところ、静岡だけでも 200 社あると聞き非常に驚きました。ビックリというよりは感動しました。またこのようなリサイクル活動が、日本の国民、政府と一緒に環境保全のために全力を尽くしているということも勉強になりました」



プレゼンテーションの締めくくりとして、崎田さんから、日本が今直面しているもう一つ大きな問題『リサイクルを進めるだけでは実は大切な資源をどんどん使うということに変わりない』こと、リサイクルがごみ問題を解決する一番の手段では無いことの指摘がありました。

## 2) 意見発表「考えよう！実行しよう、今わたしたちにできること」

受賞作品にも「ごみ問題」がとりあげられています。作品への思いや、身近なところでどんなふうにこの問題を感じ、どう対処しようとしているのか訊いてみました。

『地震の後で』という作文を書いて、  
村瀬「あのときは地震の後に大量のごみが出たのを見てただビックリしました。どうして地震があっただけで、あんなにたくさんのごみが出たのか疑問に思いました。今、私と家族は、不要なものは買わず必要なものだけにしています。学校でもリサイクル運動として図工の時間とかに家で不要になったものを使って物を作っています」

長岡「僕の書いた作文の中では、僕に釣りを教えてくれる村上さんというおじいさんが、落ちてるごみを拾ってそれで釣竿を新品同様に作りかえます。おじいさんの話では、15年くらい前までは魚がすごい採れたけど、今は釣り人が海にごみを投げて汚れて、魚たちが減っています。取組みとしては学校でアルミ缶を集めて車椅子を買い老人ホームに贈ったり、地域のごみ拾いをしてごみを減らす活動をしています」

嶋田「僕はこの21世紀が緑いっぱい、動物いっぱい、植物いっぱい、そんな地球になってほしいと思って書きました。僕は児童会の役員で、学校では次の3つのことをしています。

- 1 ごみゼロ運動：登校時の集合場所近くのごみ拾い
- 2 もったいない運動：まだ使える鉛筆などを最後まで使ったりする運動
- 3 省エネ運動：エネルギーの無駄にしないように使っていない電気は消したりする運動」



海外からのお友達には、自分たちの国ではどんな環境問題が起こっているか、そして作品を通して何を訴えたかったかを尋ねました。



孔(中国)「北京の空は年中、大半が曇りです。砂埃です。木が土の砂漠化を防ぐことができますが、周りに高層ビルが建てられるにつれ、森林の伐採がどんどん進んでいます」  
(植樹している子供達のポスターを書いた)

金(韓国)「私の作文は未来の地球についてです。私たちには地球以外住む場所が無いので、一生懸命努力しなくてはならないと思います。私は水が汚染されないように残飯などは飼料にしたり、ごみの分別をきちんとしています」

アン(韓国)「私は地球は生きています。人間は病気になると病院に行くので、環境破壊によって病気になった地球を描いてみました。地球は今病院に行くことが必要だと思います。一番良いお薬は、たくさん木を植えてきれいな空気を作って、使った水はきれいに浄化して流します。きれいな木や水がある山がたくさんあれば地球は元気になると思います」

アドナーン(シンガポール)「僕の書いたエッセイのポイントは、まず環境問題では政府のする役割がとても大きい。シンガポールはちゃんとしています。僕が生まれたバングラデッシュでは政府がちゃんと責任をとってません、ということは人々も責任をとりません。ごみをどこでも平気でポイと捨てるので、ごみがどんどんたまり、それにより病気が起こってきます。次に大切なのは若い人への教育をし、環境のために何をすべきかを啓蒙していくべきです。例えばシンガポールの11月5日から11日までのクリーン&グリーンウィークで、要するに『きれいにして木を植えよう週間』というキャンペーンが決まっています」

ベネディクト(シンガポール)「私の書いたポスターは地球にばんそうこうを貼っています。これは人間の自分勝手な行動から起こったことです。シンガポールでは小さい時からごみはポイと捨ててはいけないと言われて育っています。また漫画を通して若い人への啓蒙をしてもいます」

ラム(マレーシア)「地球の半分は美しい世界があり、残り半分は汚染された地球、そういう現実が存在することをポスターに込めました。私自身できるだけごみを少なく資源を大事にするよう努めています」

アドゥン（タイ）「伐採や温暖化とかの現実の問題を子供たちが一緒に解決しようという考えと、滝や森そしてバケツの中の水で、自然の中の涼しさ、心に染みる美しい風景を描きました」

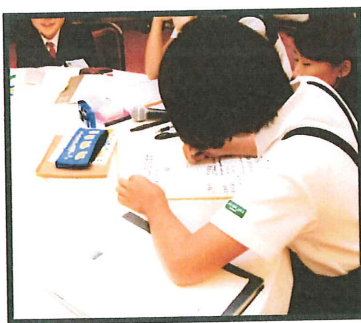
ウィリアム（インドネシア）「インドネシアではかなり伐採が行われてこのような枯れた土地になっているのと、国を挙げて今植林に力を入れていますので、それを描きました。なぜ伐採がそんなに進んでいるのか、僕が考えるには、まだ国民みんなが木を切ることが環境を破壊することだと気付いてないからです。しかし、今雨が降らなくなってるので、こうして木を植えても必ずしも育つかどうかかわからないというちょっと恐い現状がインドネシアにはあります」

川副「地球環境と聞いて、まず大きな木を思いました。そして各国の人々を思いつき、みんなが仲良くしていたら地球も元気良くなって、地球が元氣だと各国の人々も仲良く元氣に暮らせるのではないかなと思い、この絵を描きました」

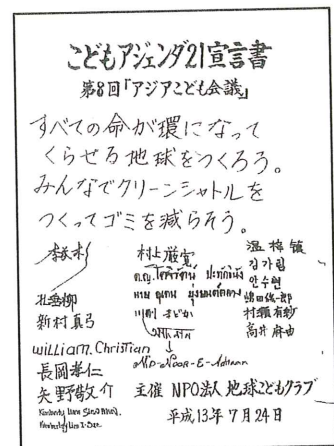
真剣に地球のことを思いやっている子供たちの意見が次々と発表されました。「ごみ問題」を切り口に話してきましたが、みんなの意見はごみ問題から暮らしのこと、街のこと、森のこと、水のこと、他の命のこと、全部つながってきました。その中で特に一番印象に残ったことを訊いてみました。

村瀬「ちゃんとここにみんなの一人一人がこれからの地球のことを考えているので、もっとここに以外のもみんなにもこうゆうことをちゃんと考えられるようになってほしいです」

### 3) こどもアジェンダ 21 宣言まとめ&署名



子供達の地球への思いから、今日の話合いをまとめ、こどもアジェンダ 21 宣言書としてみんなのスローガンを作ります。アジェンダの色紙には参加した全員の署名が記され、代表して中学生作文部門で高円宮賞を受賞した村瀬有紗さんにスローガンを書いてもらいました。嶋田君からの提案、「太陽エネルギーを利用するクリーンシャトル号を開発して、荷台に原子爆弾や環境ホルモン、ダイオキシン等地球に不要なものを押し込めて宇宙に飛ばそう」という意見、そして、人間だけで無いすべての生き物の住む地球をもっと良くしようという子供達みんなの意見から、今年の宣言書はまとめられました。



### こどもアジェンダ 21 宣言書

「すべての命が環<sup>わ</sup>になってくらせる地球を作ろう。みんなでグリーンシャトルをつかってゴミを減らそう」



各国の代表から、環境省の中川総合環境政策局長へ

#### 《中川総合環境政策局長のお言葉》

ただいま大変素晴らしいこどもアジェンダ21宣言書をいただきまして、どうもありがとうございます。本当にこうした全世界のお友達の輪が広がっていくことが、地球環境につながっていくと思います。環境省も全力をあげて地球環境を守るために努力してまいりますけれども、皆さん方も一層このお友達の輪を広げてこれからもがんばっていただきたいと思います。